

駒澤大学 4 × 0 中央大学

90分間駒大ゴールを守りきった牧野。主将・GKとして、コーチング、好セーブでチームに貢献した
(撮影・野澤俊介)



前節の失敗を意識し 怒濤の攻撃で大量得点!

自信に繋がる勝点「3」

前節東学大に敗れ、第8節終了時点1位の筑波大と勝点「3」離れてしまった2位の駒大。前期リーグ戦を1位で折り返したい駒大にとって、負けられない試合が続く中での敗戦だった。だが、なんとか流れを変えたい彼らの思いは強く、見事に今節復活を遂げた。

秋田監督も、「先週の敗戦が良い方向に出て良かった」と振り返るように、最後まで自分たちのサッカーをピッチで練り広げた。その証拠に4得点無失点という快勝の結果となる。

前半15分、安藤からのパスを田谷がドリブルで抜け出し、落ち着いてシュートを放つ。2試合連続スタメン出場を果たし、先制点を奪った田谷は、「しっかり決めようと思って丁寧に決めた。ゴールは嬉しかった」と今回の得点の一つの自信に繋がったように見えた。続く28分、怪我から復帰したばかりで久々の出場となる鈴木亮が赤嶺からのアシストで2点目を奪取。まだ手の怪我は完治していないものの、ハンデを感じさせないプレーを見せる。その後中大にパスを回されるシーンが何度かあるが、決して得点を許さない展開が続く。

後半開始早々、またしても鈴木亮がやってくれた。右SHからFWにポジションチェンジした鈴木亮が、相手選手のクリアボールを拾いゴールを決める。更に波に乗る駒大は、52分に田谷からのグラウンダーのクロスも赤嶺が蹴り込み、追加点を上げる。今回「勝ちにこだわろう」として臨んだというGK牧野のコーチングも良かった。鈴木亮と同じく怪我から復帰した廣井、桑原のセンターバックも堅い守りで、チームの勝利に貢献。攻撃も守備も90分間戦えて、見ていて伝わってくるものがあった。

次はいよいよ筑波戦を迎える。調子が悪かろうが良かろうが勝負は一回限り。「もう少し決定力、パスの正確性、高い位置からのDF。これをきっちりやってほしい」と監督は筑波を倒すための課題を語った。今後駒大が優勝を目指す上で、次節の戦いが山場となるのは間違いない。どんな試合を見せてくれるか見物である。